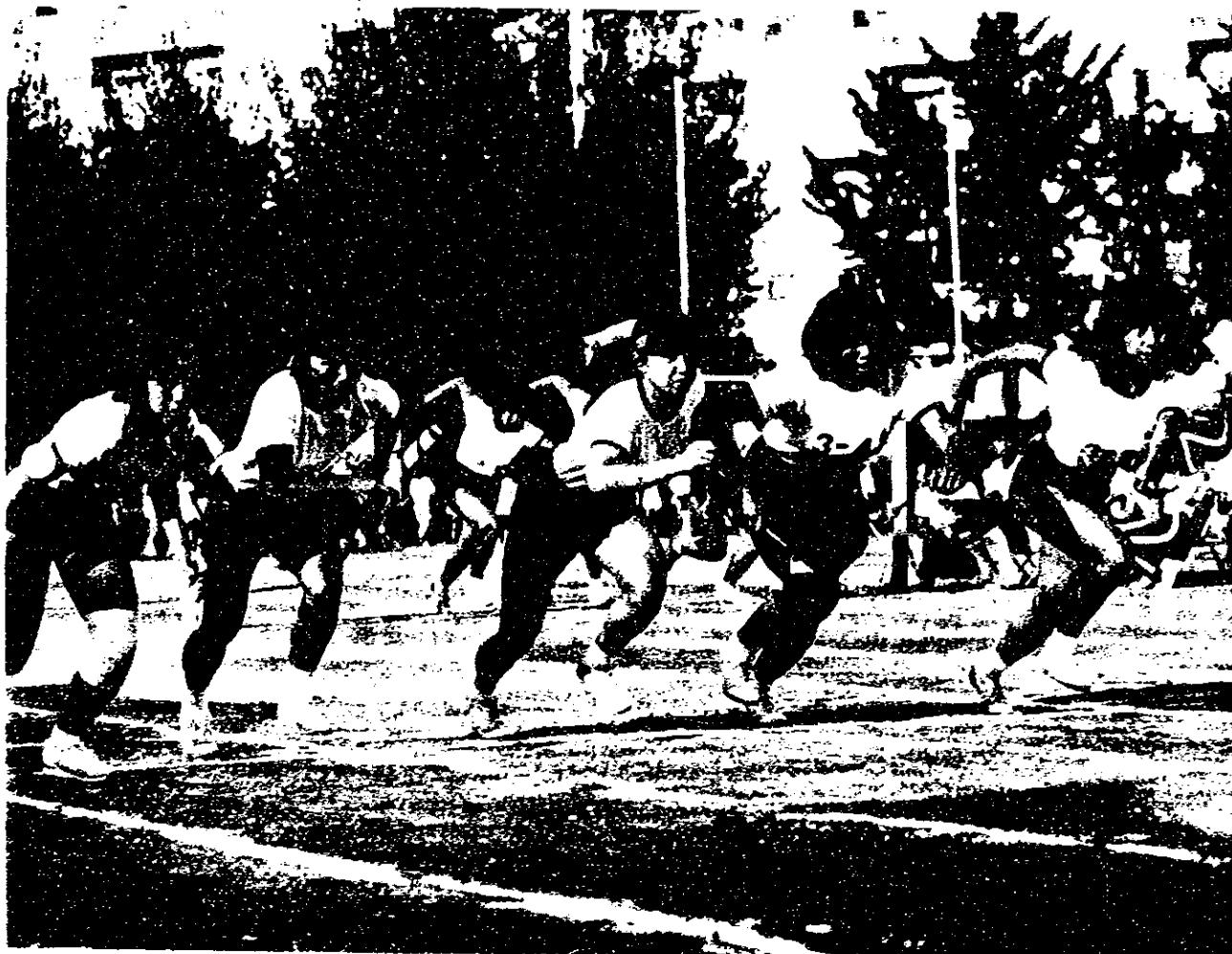


六稟倶報

NO. 17

1984・9・15

昭和59年9月15日発行
発行 大阪府立北野高等学校内
六 稲 同 憲 会
〒532 淀川区新北野2-5-13
電話 06(303) 5661 代表
振替 大阪9-068025
六稲同憲会 名簿刊行会
振替 大阪1-309004
山本次郎・溝鰐正巳・阪田善信
フジエフォート印刷
印刷 電話 0729(87) 8254



1983・10・2 体育祭

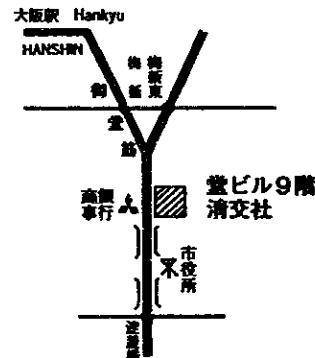
本年度

111周年 総会は いつものとおり 清交社!!

会場 堂ビル9階 清交社

北区西天満2-6-8

TEL. 361-0833



日時 11月9日(金)

PM 5.00 受付 PM 6.00 開宴

(立食パーティー・ビール飲み放題)

会費 3,000円

(但し、S55卒以降—卒業5年以内と
S2卒以前—75才以上の方—無料)

※ 出席の御連絡をお願いします

卓話 「スポーツと演劇」

日本映画テレビプロデューサー協会々員

八橋 卓氏 (昭和20年卒・59期)

卓話者紹介 (昭和59年6月6日・日本経済新聞夕刊から転載)

心に生き続けるドラマ——20年前の「判決」製作著者募る会に300人

ひとりの元テレビドラマ制作者が5月末、定年で放送局を去った。八橋卓(57)。ドラマ「判決」の、かつてのチーフディレクターである。「判決」は昭和37年10月から約4年間、200回にわたりてNETテレビ(現・テレビ朝日)系列のゴールデンアワーで放送された。弁護士活動——裁判ドラマという形式を通じて社会の現実に真正面から取り組み、社会保障制度の貧困と矛盾、差別、被爆者問題、教育、公害、人間の尊厳など、今日に生きる人びとの切実な問題をドラマ化し、投げかけてきた。

そのヒューマンな姿勢は、当時、熱烈なファンを生み、視聴率も最高30%をマーク。第1回テレビ記者会賞、第4回放送作家協会賞など数々の受賞に輝いた。しかし半面、その真心的で骨太なドラマのあり方は放送中止、せりふカットなど度重なる「受難」を招き、ついには「視聴率不振」を理由に打ち切られる運命をもたらすことになったのであった。

打ち切りに際しては、志賀直哉、広津和郎、南原繁、手塚治虫ら著名人二百数十人が番組存続を求める声明文を発表、また視聴者による「判決を守る会」もつくられた。放送史上、これほど愛情されて消えた番組はない。「判決」の「受難」は、八橋の人生をも狂わせる結果になった。

さきごろ、定年を迎えるその八橋を囲む会が、有志の呼びかけで開かれた。集まった人の数、およそ三百人。7年前にドラマ頃を懐れ、その後スポーツ部スタッフとしての活躍が中心だったが、阿木燿史、本田英郎、信欣三、吉行和子、茨木恵など多くの放送作家、俳優、批評家らが彼の労をねぎらい、第二の人生の門出を祝福した。「判決」は、人々の心の中に生き続けていたのである。

八橋は「接職者の心に明日への運になるようなドラマが、また作れるのでは、といった錯覚が今日まで私をテレビ局に残らせた」と笑わせたあと、「できれば、また多くの仲間たちと仕事を続けたい」と抱負を語った。

テレビもジャーナリズム。そのドラマが社会の現実から目をそむけ、ただ愛だの、恋だのだけを描いていればいいという道理はない。八橋の「会」は、今日のテレビドラマに何が欠けているかを、あらためて考えさせた。

(M)

昨年の総会から

卓話 砂漠化の愁い

弁護士 黒田了一 (41期)

110周年と砂漠の話とどういう関係があるのかと思われるであろうが、120周年・130周年総会にも参加したいと思うし、皆様も参加されるであろうと期待しますが、砂漠の問題をないがしろにしては、どうなるだろうかと不安である。この不安をなくす為に、地球の砂漠化を防止しなければならない。また、自然砂漠の問題だけでなく、情緒砂漠、医療砂漠、文化砂漠、都市砂漠等精神的な退廃—人心砂漠—を防がないと、自然の砂漠化もまたどんどんと進むであろう。それに地球が核戦争で死の砂漠にならざるを得ないであろう。

数日前アメリカのテレビは「The day after」を放映し、米市民にショックを与えた。また、本年に入って4種類の報告がすでに発表されているが、それはいずれも似た様な数字をはじき出している—例えば核戦争が起これば北半球の13億の人間のうち翌日までに11億が死に、浮遊粉塵が地球をとりまき、太陽光線をさえぎり、農作物は全滅し、食べ物はなくなり、空気、水は放射能で汚染され、死の砂漠にならざるを得ないであろう。

核戦争の脅威については50年近くも前にアインシュタインが、述べているし、あるいは1957年の第1回パグウォッシュ宣言以来、昨年、湯川秀樹博士の呼びかけで開かれた京都会議まで、実に30回も、あらゆる軍備を放棄しない限り人類は絶滅以外にないというアピールをしているが一部の人以外には知られていないようである。私達が、120周年、130周年を無事に迎える為には戦争は絶対に起こしてはならないという事は自明の理である。

自然砂漠については、すでに10年前にケニアのナイロビで世界砂漠化防止会議が開かれている。この事もほとんどマスコミが取りあげない。去年1982年、国連の環境特別会議が5月から開かれた。この事も報道されていないし無関心である。

今現在地球上で植生に適さない所が気象条件からみて、36.3%であるが、現実に木が生えない地域は43%を越えている。6~7%は人為的に砂漠化した地域であろう。このまま行くと21世紀までに50%以上が砂漠になるという。まして世界の総人口は45億といわれているが21世紀のはじめには62~65億、2027年には100億という推定がある。この100億がぎりぎりの限界で、現在8億人が飢餓人口である。それが13億になるであろう。現在子供が毎日4万3千人飢餓で死んでいる。何の胸のいたみも感じないとするならば日本人の心はすでに砂漠化しているということです。自然の砂漠が進んでいけば同時にそれは森林が破壊されていきます。日本は66~68%が、森林といわれているが、その中味がどんどん崩壊して来ている。今度の行政改革で营林署の職員を減らし民間に委託するという答申が出ているが、この通りにすれば、たちまち日本の森林は崩壊を早める。

経済的採算を中心に行めたら杉や桧ばかりになって水を貯え洪水を防止するという投割がずっと低くなる。現に面積は66%残っていてもその力は半分に下がってきている。この崩壊を一層早めるような行革であるならば、やらん方がましであると私は考えております。そして文部省も学習指導要領から林業を削ってしまう。このことについても日教組は批判しない、だいたい知らないのであります。

砂漠は、何となし、夢とロマンを持ちがちである。月の砂漠の歌の様に砂漠の過酷さを知らないで、夢とロマンでごまかしている。

今日は時間の関係で述べませんが、私の一番恐れているのは、人心砂漠、心が失なれて行っていることがあります。

125周年に、皆さんと一緒に集まる為にも、砂漠化の問題を考えていかなければならぬと思います。(要旨)

年会費は2,000円です!!

よろしくご協力を願います!!!

年会費制度の採用により、随分と同窓会運営に余裕ができ、総会の運営・会報の発行、その他の事業も順調に進めてまいりました。ご協力を感謝し、謹んでお礼申し上げます。

年会費は2,000円です。旧に倍するご協力ご協賛をお願い申し上げる次第です。
納入は郵便振替を利用して下さい。

番号 大阪9-068025 名称 六稜同窓会

東京六稜会 第27回総会報告

— 北野高校よ、永遠なれ —

東京六稜会幹事 藤村吉男 (84期)

59年度の東京六稜会総会は、6月1日午後6時より、日本工業俱楽部（東京、丸の内）で開催された。6月の第1金曜日に開催されるのが定例となっているこの総会も、今年で27回目を迎え、当日も定刻の30分以上も前から続々と熱心な会員が集まつた。

大山利雄常任幹事（56期）の司会により、定刻の午後6時、総会が開始され、最初に玉置敬三東京六稜会会长（38期）が挨拶に立たれた。この挨拶の中で、玉置会長が昨年母校創立110周年記念総会において、東京の代表として祝辞を述べられた内容の一部を紹介され、「我々は、北野の名前を誇りに思い、また北野の名前は、我々の心のよりどころであり、ふるさとであります。阪神のよき地にある北野が永遠に不滅であることを望みます。」と結めくくられた。

続いて拍手に迎えられ、北野高校校長であられる村田義人六稜会名誉会長が挨拶に立たれた。

「日頃は六稜会の皆様の絶大なる御支援有難うございます。特に去年は創立110周年の記念行事を行ないましたが、資料の提供など御協力誠に有難うございました。」と感謝の意を表明され、続いて昨年の110周年記念行事の内容についての報告、及び、北野高校の近況報告をされた。この報告の中で、「今後、高校の入学者は、64年までは第2次ベビーブームの世代で増え続けますが、その後は急激に減っていくことになります。大阪府は、もう高校を新設しない方針であり、この波を乗り越えるために、増学級、学級定員の増加、分校方式という3つの方法を考えています。分校方式というのは、校舎の建て替える必要のある高校は、分校を作り生徒が減ったら、新校舎に移るという方法ですが、教育的に問題は残ります。」と教育界の現状についても詳しい御説明をして頂き、「いづれにしても前途は決して平坦とは思えませんが、北野高校は他の高校から見れば目標であります。北野はその目標となるものを決して失ってはならないと考えております。」と結ばれた。

続いて司会の大山常任幹事より、「今回の総会は、昨年発行された、六稜会員名簿に基づき、2500余名に案内を発送し、220名の会員が本日出席予定であり、内30名が新人会員であります。」との報告があった。

総会の締めくくりとして恒例の講演に移ったが、本年は㈱システムニューライフ代表取締役 菊池三郎氏（56期）に「健康ニーズのシステム化」について講演していただいた。

菊池氏は、昭和18年北野中学を卒業。その後北大農学部に進み、同校卒業後製油会社に勤められていたが、アメリカへ留学され「大豆たんぱく」の研究をされた。知る人ぞ知る「大豆たんぱく」の権威として、全国各地で数多く講演をされている。

本年、富士製油を退社され、㈱システムニューライフを設立、代表取締役となられ、健康食品に関するコンサルティングを始められた。今後の活躍が期待されている。なお、菊池氏のお兄様（52期）は第1次南極探検に隊員として参加されている。大きな拍手に迎えられ、菊池氏が演台に立たれた。

「近年の健康食品に対するニーズは大きいが、現代の健康食品の売り方は、派手過ぎて、消費者が実際に使用しても広告通り健康になる訳ではなく、がっかりしてしまいます。食品は総じて、もともと健康食品であり、例えば、豆腐はアメリカでは健康食品コーナーで販売されているし、ロンドンでは、ジャパンニーズフーズコーナーがあり、それがイコール健康食品であるというイメージで売られている。」と日本の行き過ぎた健康食品ブームを指摘され、「そもそも、健康ニーズは個人により違うもので、1億人全てに効く健康食品はありえない。野原でバクつくおにぎりはまさしく健康食品ではないでしょうか。」「体の調子が悪い場合は医者に相談して薬を選ぶのが通常だが、健康食品に関して、現在、消費者は知識もなく、メーカーの販売活動に頼っているのが現状です。」「健康の問題は広く考えると、将来の日本の社会の問題でもあります。私は、健康を通じて、これから社会にお役に立ちたいと考え努力してまいります。」と結ばれた。我々の身近なテーマではあるが、永遠の問題でもある健康についての講演に大きな拍手が送られ、総会はお開きとなった。

引き続き、会場を移して、お待ち兼ねの懇親パーティーが福井澄男氏（55期）の司会により開始された。昨年に続き当日の出席者の中で最長老の三木元三郎先輩（大正3年、27期）が「母校の繁栄を願い、かつ会員諸氏の健康をお祈りします。」という挨拶とともに乾杯の音頭をとられた。なお三木先輩は、この総会には、毎年出席されており、今回は東京六稜会より記念として六稜のマークの入ったベストが贈られた。大山幹事よりベストが手渡されると、87才とは思えぬ元気な三木先輩に、会場からは万雷の拍手が湧いた。その後各会員がテーブルを囲み、ビールや食事をつまみながら、いつもの懇親会場となった。暫く自由な談笑が続いた中、司会より祝電の披露がされ、松本善明氏（衆議院議員、57期）中馬弘毅氏（衆議院議員、67期）の電文が紹介された。

続いて、毎年ビールの寄贈を頂いているアサヒビールの中小路茂次専務（58期）から御挨拶があった。

恒例の新人会員の紹介に移り、昨年入会したばかりの中村仁美さん（95期）の司会により、30名のこの春東京地域の大学に入学された新入会員が次々と紹介された。新人会員を代表して、村井正親君（東大）が挨拶を行ない、会場からは大きな拍手と声援が送られた。

いよいよお開きの時刻も近づき、中村真美氏（49期）の音頭のもとに恒例の校歌と応援歌の大合唱となり、「フレーフレー北野」の大エールの響きを残しながら、お開きとなった。

会 務 報 告

第一回常任理事会 3月26日 満交社
 第二回常任理事会 6月12日 満交社
 第一回理事会 上野会長、鴻池副会長、
 村田名誉会長、他理事40名出席
 議案1. 新常任理事紹介、溝脇正
 巳(S28年、65回)
 新理事紹介 村田正太郎(S2、40回)、
 田中秀康(S46、83回)、西田三郎
 (S59、96回)、小坂裕美(S59、96回)、

野邑公美子(学校理事、S38、75回)
 溝脇正巳先生はこの春、今宮高校へ
 転出されました。後任は、坂田善信
 先生(S43、80回)

2. 昭和58年度決算 別紙の通り
3. 昭和59年予算
4. 昭和59年総会は常任理事会に
 一任。

会 計 報 告

昭和58年度 六種同窓会 一般会計報告

科 目	58年度予算	58年度決算	備 考
収入の部	円	円	
1. 前年度繰越金	6,353,827	6,353,827	
2. 入会金収入	1,692,000	1,686,000	1,686人
3. 年会費収入	5,000,000	5,302,000	×1千円
4. 広告収入	200,000	110,000	
5. 隆時会費収入	2,000,000	1,330,000	266人×
6. 寄付金収入	10,000	69,000	5,000円
7. 利息収入	200,000	134,556	
8. 総 収 入	10,000	13,500	
収入合計	15,465,827	14,998,883	
支出の部			
(1) 運営費			
1. 人件費	1,000,000	829,500	
2. 旅費・交通費	300,000	209,427	
3. 通信費	600,000	188,115	
4. 印刷・事務用品費	15,000	23,280	
5. 会議費	500,000	346,275	
6. 講会費	3,000,000	2,596,630	
7. 廉幣費	1,300,000	1,386,030	
8. 総 費	300,000	182,248	110周年記念品料、退職記念品料を含む
(2) 会報発行費			
1. 編集費	100,000	30,000	
2. 印刷費	1,600,000	1,475,000	
3. 発送費	1,300,000	1,203,930	
4. 総 費	10,000	0	
(3) 予備費	1,440,827	0	
(4) 他会計へ支出			
1. 基金積立会計	4,060,000	4,000,000	
2. 名簿特別会計	0	0	
支出合計	15,465,827	12,470,435	
次年度繰越金	0	2,528,448	

注、名簿特別会計 58年度売上 784部
 製作総数 4,000部 寄贈 348部
 57年度予約 2,334部 58年度残 534部

昭和58年度 六種同窓会名簿特別会計報告

科 目	予 算	決 算
収入の部	円	円
1. 前年度繰越金	10,128,712	10,128,712
2. 名簿売上収入	2,250,000	2,352,000
3. 広告収入	8,500,000	8,598,000
4. 利息収入	350,000	381,637
5. 総 収 入	0	500
6. 一般会計より受入	1,000	0
収入合計	21,229,712	21,460,849
支出の部	円	
1. 編集費	350,000	326,578
2. 印刷費	10,000,000	9,849,966
3. 発送費	1,200,000	1,135,830
4. 総 費	550,000	457,365
5. 基金積立会計へ支出	8,000,000	8,000,000
支出合計	20,100,000	19,769,739
次年度繰越金	1,129,712	1,691,110

昭和58年度 六種同窓会基金会計報告

科 目	決 算	摘要
収入の部	円	円
1. 前年度繰越金	20,743,657	内訳 大和銀行 金銭信託 15,630,609 普通預金 5,113,048
2. 利 息	1,589,279	
3. 新規積立金	12,000,000	内訳 大和銀行 一般会計 4,000,000 名簿会計 8,000,000
収入合計	34,332,936	
支出合計	0	
次年度繰越金	34,332,936	大和銀行 金銭信託

以上の通り 昭和58年度六種同窓会会計報告をいたします。

昭和59年5月2日

六種同窓会長 上野 淳一

本会計の正確であることを認めます。

昭和59年5月2日

六種同窓会監事 滝井尚三
 同 岸田圭児

北野歴史

題字 泉 梓二前校長



—連載第7回—

北野八春秋

本誌付録

北野赴任のころ

昭和39年4月、学校長として北野高校に赴任した。この年は「汽笛一声新橋を……早や大阪に着きにけり……」の例の鉄道唱歌のメロディーの流れにのって、新幹線が走り始めた年だった。国鉄の営業に先立って、大阪一米原間の試乗に招待されて、従来になかったあのスピード感を味わうことが出来た。これも北野に来た余慶だった。また東京オリンピックも開催されたし、忘れ得ぬ年である。

当時の鎌田教育長（北野43期）から、北野に行くようとの内命があったとき、わたしは校長未経験であり、いきなり北野に行くことは、何とも心もとないし、何よりも天下の北野の名声を傷つけずに、歴代校長の輝やかしい業績を、維持発展させていく自信などないとの心境を、率直に吐露したのだが、教育次長共々に叱咤激励され、度胸をきめて、一種悲壮な決意で、北野の門をくぐったのであった。

名画「ノートルダム寺院」のこと

赴任間もない或る日の朝、出勤して校長室に入って驚いた。室内に書類が散乱し、机の抽出は開いたまゝで、机上には地下足袋の跡がついている。見ると南側の窓ガラスが割られている。泥棒が入ったに相違ない。ハッとして名画「ノートルダム寺院」を見上げたところ、安泰であった。胸を撫でおろした。間の抜けたコソ泥であったのが幸いであった。

その後、この名画の保存については万全の措置を講じた。

能研と国旗掲揚の問題

赴任して、先ずわたしを待っていたのは、能研の問題と国旗掲揚の問題であった。

能研は文部省の企画で、府教委も府下高校生の能研受験を推進していたところであり、わたしも大学入試の改善に資するところありと思考し、全校あげて参加の方針をとった（もっとも先生方の間では賛否こもごもではあったが）。

ところが、この能研は大学（協会）側が今一つ積極性に欠けたこともあって、いつしか全国的に下火となり、遂に雲散霧消といった運命を辿った。

過去に進退と呼ばれた試験制度があって、失敗に終り、また能研も日の目を見ることが出来ず、現在行われている共通一次は、大学協の方から出たものであるが、この運命もまた前二者の轍を踏むかも知れない。

入試改善の問題は、どこまでも試行錯誤の繰り返しなのかどうか。今更ながらそのむつかしさを痛感している昨今である。

国旗掲揚の問題は割愛する。

学園紛争のはしり

昭和42年頃より学園紛争が始まる。先ず大学が火元で燃えさかり、漸次高校に飛火してきた。本校では吉田国葬問題から顕現化してきたように思う。吉田元首相国葬反対を叫ぶ本校生が、府教委に押しかけて坐りこむという事件であった。

わたしは、無断授業放棄した生徒の処罰とともに、授業を放棄して押しかけた生徒に対して、緩昧な対応をした府教委の担当者には、今後の適切な指導を強く要請しなければと考えた。

生徒の処罰について、拒否の動きがあることをきいたので、この件についてはわたしは重大決意で対処する旨担当職員に伝えた。最終的には拒否を断念させることができた。

文化祭講演問題と生徒のハンスト

昭和44年（東大入試が無かった年）になると、高校の学園紛争はいよいよエスカレートして、I高校、H高校等に燃えうつり、H高校では学校中をトタンのバリケードで囲むという異常な事態となり、同校の職員会議も自校では開けず、北野で聞くという状況になった。

しかしながら、大阪では何といても北野高校が燃えなければ、北野の牙城を落さなければ、との方針が立てられたようであり、本校に的がしばられてきたのである。

例年、文化祭の講演は本校の先輩を煩わしてきたところであり、そのことは、まことに意義あることと思っていた。

この年も既に内諾を得ていたところ、文化祭の講演には京大の井上清教授を呼び、一挙に北野に火をつけようという一部生徒の動きがあり、事実I高校の生徒と本校生が連繋して、井上教授との間で交渉が成立していた。井上教授来校の情報が、電算的に生徒間に流れた。

前後して、講演者の変更（本校先輩の講演を井上教授の講演に変更）を学校側に認めさせるべく、生徒3人（女生徒1人を含む）が、廊下でハンストをする事件も起った。ハンストは直ちに止めさせなければならない。強く指導するよう関係先生方に伝えた。

一方、井上教授問題については、指導部の先生より「井上教授は、学校長からの依頼があろうが無からうが、生徒さんの要請によって、北野に行くと約束したから、その約束はホグには出来ないと理由で、文化祭当日は必ず行くと言っている」との情況報告があった。

わたしは即座に決断し、指導部の先生二人を伴い直ちにタクシーで京都の井上教授宅に直行した。わたしは車中で種々の場合について考慮していた。

若し井上教授が、生徒との約束だということを楯にとつて、何としても北野に行くと主張した場合は、物理的手段をとつても、校門内には絶対に入れないことにする等々の決意を固めていた。

さて、面談の骨子は次のとおりであった。

私 「先生はどうしても本校に来て講演されるお心算ですか」

教授「そのように考えている」

私 「その理由はどういうことですか。また講演の約束をされたについては、何かの動機があったのですか」

教授「御校の生徒さんとの約束であるからです。なお講演を約束した動機は特にありません」

私 「先生が約束を守ると言われることは、一般的にはよいことでしょうが、今回のことについては、手続きの上でもおかしいし、謂わば野合的約束と思いますが」

教授は暫し沈黙。考えている様子。

私 「先生はどんな約束でも守ることはよいことだとお考えなら、それは先生のご自由でしょうが、その結果についてはどのようにお考えですか」

教授はなお考慮の様子。

私 「わたしは北野高校の校長として、全生徒の教育について責任があり、学校運営全般の最高責任者であります。私の責任について、先生はどう考えられますか」

教授「当日は行かないことにします」

私 「本校の生徒には、どのように伝えておきましょうか」

教授「井上は文化祭当日北野へは行かないと言っている、と伝えて下さい」

私 「その理由というか事情については、どのように言っておきましょうか」

教授「その理由については、生徒さんに会って直接説明すると伝えて下さい」

私 「わかりました」

や、あって

教授「私はアジテーターではありませんよ」

と一言。

井上教授宅を辞去して帰校した。

かくて文化祭は無事終了したのであるが、そのあと、病気も予後が大切だととの観点と、北野の生徒なら大丈夫だととの確信をもって、生徒諸君が、いろんな考え方や立場から希望しているらしい井上教授の講演会を、あらためて開催することにし、わたしから正式に講演を頼み、教授の承諾を得て、講演と終了後の質疑応答の時間を用意した。

教授の講演は「私はアジテーターではありません」との第一声から、日大闘争、東大闘争の経過について述べられたのが、主たるものであったと記憶している。

質疑応答では、寧ろ教授の方に当惑の気配さえうかがわれたように、思い出される。

ハンストの件については、間もなく鎮静した。最後の一人となったのは、女生徒であった。今回も処罰拒否の動きがあったが、最終的には拒否を断念させることができた。

かくして、一件落着。

新聞批判のこと

これもその頃のことと思うが、某新聞の記者が、北野高校に何か起こっている筈だ、何もない筈がないと言つて、たびたびやって来た。君達は紛争とか騒動とかを期待し、希望しているような様子だが、おかしいのではないか、何も言うことはありませんよ、と言って追い返したが、ムッとした顔で出ていったことなど今も目に浮ぶ。これも火つけ役の一端をかつていでいたのかも知れない。

その当時の終業式のときだったか、「新聞は読むべし、しかし決して読まれるべからず、今や新聞をはじめとするマスコミは、第四の権力となっている。権力(者)は常に謙虚でなければならない」などと述べていたとき、丁度例の記者が、校門を入って、整列している生徒の横を歩いていた。式後何か一言あるかと思っていたが、そのまま姿を現わさなかった。一寸拍子抜けだった。思い出せば、いろいろあったものである。

生徒一人の卒業式

更に一件つけ加えると、授業を放棄して、関東方面の学園闘争集会に一週間ほど参加した生徒が出たのも、このころのことである。3年生であったこの生徒(Y君)に対しては相当の処罰をしたことは言うまでもなく、同時に卒業に必要な時間数の補充をしたことにより、他の生徒と同時の卒業式には間に合わなかった。先生方の中には、温情をもって取あえず式だけは他の生徒と一緒にしてやつてはとの意見もあったが、春風秋霜のけじめはつけるべきだとの考え方で、後日唯一人の卒業式を行った。校長室で教頭、事務長、担任その他列席の上、父兄同伴のY君に卒業証書を授与した。Y君も感慨深く見受けられたり、わたしも何かほっとしたがすがしさを感じたことが、思い出される。

後年Y君から、結婚することになったので、式の当日には是非とも出席してほしいとの招待状が届いた。いたく感激し、胸の熱くなるのを感じた。

職員関係のこととも一言

問題があったのは生徒だけではない。例えば組合の指令による日宿直拒否という事件なども起つた。たまたま当时わたしは病氣で欠勤していたが、何とか事が無事終了を見たのは、杉本事務長の情況を洞察しての適切な対処と日夜の尽力によるものであった。病氣のため多大のご苦労をかけたと、今もって有難く思っている。

まれにみる名事務長が、北野に存在していたのである。

卒業式次第の厳肅簡潔化

わたしは常々何事も改善近代化を意図して、進歩の道を歩まねばと考え、また実行もしてきたが、卒業式次第もその一つと考えていた。

昭和44年、学園紛争激化の現われの一つに、卒業式粉砕という動きがあった。当時の3年生関係職員が、生徒

に先手を打つつもりで、卒業式改良を意図していたようだったが、それは、答辞について一人の生徒が書くのではなく、答辞委員会をつくり、生徒の総意を反映したものを作ろうとするものとのよう、他は概ね従来のもののように聞いていた。

わたしは発想の転換というか、もっと思い切った形を考えていた。今こそそれを実現する好機だと考え、その案を示した。

式次第は、国歌齊唱、卒業証書授与、校長式辞、校歌齊唱だけとし、其他は一切割愛するというものであった。厳粛簡潔を旨とした。

これに対する格別の意見をきいた覚えがないのは、予想外だったからかも知れない。答辞委員会なるものが、その時点で空中分解したので、3年生担当教員は面白くなかったらしいことを、後で聞いたが、いろいろ考えてくれていたことに対する、有難いとは思っていたのである。

なお附言すれば、従来の形式が悪いというわけではない、それはそれで存在の価値はあるので、当分タンスに入れておいて、全く新しい服に衣更えしたといったところである。

他校に類がないであろう形を作ったことは、わたしのひそかに自慢出来る唯一つのものかも知れない。

北野百周年と百年史と創立記念日

わたしが北野に赴任した前年（昭和38年）に、北野創立80周年の式典が行われたのであったが、このことについて、若干の不思議さ（？）を感じていた。というのは北野の校歌には「その昔難波御堂に……」とある。その時から数えると10年のズレがあるということだった。それで今後機会ある毎に同窓会をはじめ大方の意見をきいて、この辺のところをどうするか宿題にしておこうと考えていた。

たまたま80周年の事業であった新図書館建設の件を、竹内前校長より引継ぎ、昭和40年より着手三年後に完成したのである。この建設については各方面的御協力をいただいたが、特に府教委関係事項については、鎌田教育長（北野43期）の御指導、工事関係については、高橋慶夫氏（北野40期、設計）、鴻池藤一氏（北野43期、建築）の格別の御尽力を賜わったことを忘れるることは出来ない。

その落成式の節、式辞の中で、わたしは次のようなことを附言した。

「本校の校歌には、難波御堂に、という一節がある。しかしこれまでは、その10年あとより数えて、60周年、70周年、80周年と祝ってきている。これも然るべき根拠のあることであるが、その前の10年も数えておく方がよいのではないかと考えますが、如何なものでしょうか。ここで御賛同いただけるならば、更に各方面大方の御意見も承わって、そのような運びに致したいと思いますが。即ち、昭和48年は100周年としてお祝いしたい。またそのようになれば、早速にも北野百年史といったものの編纂にも取りかかりたいと思うのですが」と。満場の拍手で御賛同を得た次第である。

その後、各方面の意見も伺ったが、何等の異見も無かったので、百周年と百年史の件は早々に推進していく運びとした。

なお、これより後のことになるが、百年史編纂を進めていくうち、創立記念日も、難波御堂に適ることにして、昭和46年より、4月20日と定めることにしたのである（従来は7月1日）。

断郊競争のこと

昭和46年、47年の2月、本校恒例の断郊競争に出場し、完走することが出来た。もっとも女生徒のコースではあったが。

わたしの希望は、完走することと、それ以上にビリになることであった。完走は出来たがビリになることは出来なかつた。女生徒の激励応援のせいだったかも。

ビリになれなかつたことは誠に残念であつて、終了後の講評のときに、そのことにふれておいた次第。

北野退任と百周年式典のこと

学園紛争も鎮静化し、颶風一過、学校は内外とも平静な日が続き、百周年並びに百年史のことなど、全職員の協力のもとにすべて順調に進展しつつあった。

昭和47年3月、わたしは勇退した。従つて百周年記念式典には、旧職員として臨席したのであるが、感慨一入のものがあった。

わたしが播種し或る程度育成してきたものもあることが、見事に結実収穫されていることには、大きな喜びと感激と感謝の念を禁ずることが出来なかつた。まこと感無量という他に言葉はない。

後記・近況片々

本年春寒のみぎり（故佐賀先生告別式の折）、山本次郎氏にお会いした節、原稿の御依頼を受け、聊か当惑した。文才無きことは言うに及ばず、筆不精ときては、なす術もない。裏の話もとのご注文。名は体を表わすとすれば、ウラノ話は書けそうだが、そもそもいかない。何とか字數を並べただけなので、御判読を乞うしかない。

此の頃は悠々自適ですか、とよくきかれるが、仲々どうして結構仕事はある。晴耕雨読ともいきかねる。近郷近在に用事のあるときは、専ら原付で走っている。早苗の植わった田園から蛙が飛び出してくる。蝶いてはかわいそうだと思い、運転にも骨が折れる昨今である。

諸兄姉皆々様の御健勝をお祈りして筆を擱く。

（昭和59年初夏記）

うらのひろお先生略歴

大正二年、大阪府堺市（旧泉州北郡西陶器村）のお生まれ。大高、京大理学部数学科卒業。

大阪府立四條畷中学校勤務（約半年）の後、昭和14年現役兵として入営、出征、同21年7月復員。

大阪府立堺中学校、三国ヶ丘高校勤務、同教頭を経て、大阪府教委主幹、指導第一課長。

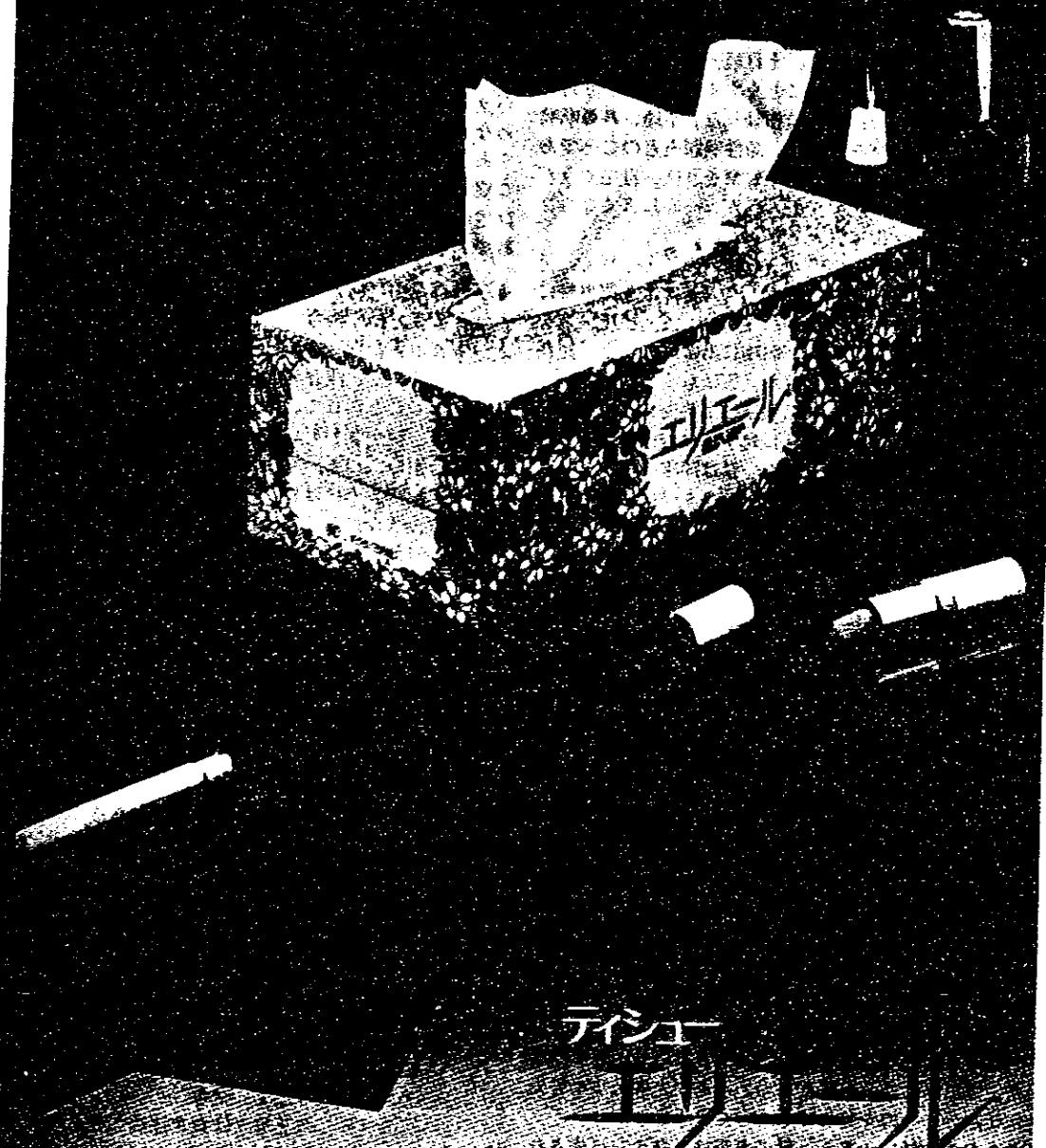
昭和39年、本学校長に御就任、同時に本会会長。

同47年、御退職。

現在、大阪府私立学校審議会委員。

くちづけの感触。

エリエールは女性の肌を大切にしたティッシュです
しなやかで清潔感あふれるティッシュ・エリエール



ティッシュ

エリエール

大王製紙

T101 東京都中央区八重洲2-7-2 ☎ 03(271)196160

死 想

題字 阿部信一先生

延命記

—癌病棟のこと—

坂本英夫（29期大五会 元旭硝子常務取締役）

昭和43年の7月末、急に声がかすれ出した。私は、これは農業織布の直接吸引又は煙草の吸いすぎの結果だと考えて、問題にしなかった。十日経っても治らない。妻子がやかましく医者に行くことをすすめるので、8月13日、県立尼崎病院の沼院長に相談した。早速、耳鼻咽喉科で永谷先生の診察をうけた。急性喉頭炎のことである。それから一週間毎に外来で診察をうけ、自宅でうがい、吸入、消炎剤の服用を受けたが、一向によくならない。趣味の園芸労働は引続き行った。

10月はじめ、沼院長に声がまだ治らぬことを訴え、再び永谷医長の精密検査をうけた。こんどは、左側声帯に発見したポリープ（Polypus疣）を摘出して、組織検査をうけた。10月12日、息子達が病院に出頭し、院長、医長より、検査結果の報告をうけた。実はもうこの時、息子達は院長のすすめで、私の喉頭癌摘出手術を依頼していたらしい。しかし、彼等の私に対する検査結果の報告は極めて不得要領のものであった。私は即座にこれは喉頭癌だと判断した。私は少しもショックを受けなかった。

煙草はきっぱりやめた。喉頭癌は痛まないが、気のせいか重ったるい、いやな感じである。10月21日の入院まで実に渙々たる気持の日々が続いた。私は私のいのちにまだ自信があった。私は日々よく寝た。食欲も一向衰えなかった。入院の朝まで、ふだんと変りなく園芸労働をした。これが体力づくりに役立ち、手術に耐え、回復を早めるもととなった。

10月21日朝、入院。10月25日が手術日だそうである。入院早々、もうものの検査がはじまった。10月25日朝9時30分手術をする、と連絡があった。つきそいの家族達に寝台で運ばれながら万才をして別れた。手術は神戸大学医学部の浅井教授執刀、永谷医長補佐で行われた。きれいな手術室であった。はじめ永谷先生が、坂本さん、まだ一寸痛いかもしれないが準備作業をやるぜ、と云つた。この時はすこし感じた。浅井先生、浅井先生、オーオー、と云う声が聞こえるが、それがすぐ消えて、あとは全くわからなくなつた。手術所要時間は二時間半とのことであった。やがて女の声で、坂本サーン、坂本サーンと云うのが聞こえ出した。ヒヨッと眼がさめたら、養生室にいた。傷口はすこしも痛まない。手術中、妻子は永谷先生に切除したものを見せてもらったそう。

このときの話によると、私の声帯はニコチンに汚されることなくきれいであつて、これに親指の爪の先位の大きさの肉腫がついており、更に裏側にごく小さいPolypus（疣）が一つあったとのことである。

手術後はトントン拍子に回復した。手術当夜と翌朝は、文字板を指でさして意思を発表したが、翌日の後半にはもう手記が出来た。数日間は咳と咳がしきりに出たが、それも日がたつにつれだんだんすくなつた。むかつ、痛みなどは一度もなかつた。当初の二日間は食欲が全くなく、アミノ酸、リンゲル、B₁B₂Cを含む5%ブドウ糖、抗生物質ペントフレックスなど、各500ccの点滴をした。3日目から家庭の協力を得て極力栄養摂取に努めた。一日凡そ2,000ccの注入を目標にした。ただ鼻からの細いパイプによるものだから、どんなものがはいっても、舌には一向感じない。味気ないものである。

手術後7日目の11月1日、上部半分を抜糸し、五分間ベッドの上に坐れと云われた。目をふさいで起きて黄わないとメマイがすると云うので、その通りにした。眼を開けたら、明るい別世界が瞬間パーッと出現したような感じをうけた。すばらしかつた。入れ歯をぬき、ひげは生え放題で、鼻に注入管をさし込んでいる姿は誠に珍妙である。

手術の最中に何かの拍子で、コトッと死んだとしたらどうだろう。私の場合、寝台車にのせられて朗らかに数人の人々の手を握り、万才をして手術室に運ばれて来た。そして浅井先生、浅井先生、オーオー、と云う看護婦や先生の声でこと切れて、あとは空々漠々。死とはその空々漠々が、いつまでもいつまでも永遠に続くことであろう。手術室の入口で、今か今かと心配して、待ってくれている家族の人々には相済まんが、これ程具合のよい死に方は、ほかにあるだろうか。生は偶然で、死は必然である。無数の精子のたつた一つが、卵とくつついて全く偶然に私というものが生まれた。ゆえに私はいのちを大切にして今日に及んでいる。しかし、死は生者必滅の通り、必然である。誰しも死を恐れるが、避けられない。そこで何とかして安楽に死にたいとねがう。ゴルフ競技で、ショートコースでワンオンして、もうワンバットでバーディになるとホールをねらっている時、ウーンと一発であの世に行けたら最高だ。こんな幸福な人を私は知っている。不幸にして私は低血圧でこんなうまい具合にゆかん。だから、こんなことを考えるのだろう。

森鷗外は「墓は森林太郎墓の外一字もほるべからず」と遺言した。

原敬は「墓石の表面には余の姓名の外、戒名は勿論位階勲等を記するに及ばず。原敬墓にてよし」と書き置きました。

波に浮びて、また沈む、海月の如く、わが生涯は、未だ終らず。

心の無きを心とせよ 一通
三業を天運に任す 空也

（三業とは衣食住のこと）

「もの云へば昏寒し秋の風」「黙して語らざれば人をして計りがたからしむ」という言葉があるが、私は無言居士でよい。昔を恋しがって声を出す必要はない。筆談

でこと足る。無苦の人生を楽しいものに工夫して行くのが、私のこれから仕事である。昨今の筆談生活、サラ紙山をなす。その上、筆談は指や手首が痛くなる。

川端康成の小説「山の音」の中に、卵を産んで疲れ切って、ヒヨロヒヨロ海に下って死ぬ鮎を、「落鮎」と云う。「今は身を水にまかすや秋の鮎」「死ぬことと知らで下るや瀬々の鮎」と昔の句を引用し、更に川の瀬にひそんで、年を越す鮎を「とまり鮎」と云う、と書いてある。私はなんとかして年々川の瀬にひそんでは年を越し、海に出るまでの歳月を、引延ばしてやろうと思う。又、肝臓癌患者が青酸加里がほしいと頼む。その訳は死を宣告されたのなら、自分で死の時を選ぶ自由をもってみたい。自分はこれは使わない。しかし、これさえあればいつでもと思うとこれから苦しみに堪える力になる、という件がある。私は自殺は否定するが、そんな時はどうぞ周囲の暖かい思いやりで、鎮痛注射を惜しみなく用いて、苦痛を楽園にしていたい、往生をとげたいと切望している。11月23日、術後29日目、勤労感謝の日記す。

もう一言ほしいと思うこともあるし、一言がすぎて座がしらけることもある。

この年頃になると、余程気を若くもたないと老醜は、ヒシヒシと押寄せてくる。病室によく尼崎工場の婦人達や、これはまた魂消したことには、尼崎の有名キャバレー やバーの女達が見舞に来る。その人達がきまって何が一番たべたいか、もう何でもたべられるかと聞く。きっともつてくるつもりである。私の一番たべたいものは女。まだたべないものも女。その他は何でもたべていると答えると、遙かに爆笑が起り一座がはしゃいでくる。こんなファンイキになると身が病床にあることを忘れて、イキイキしてくる。やっぱり若い女を集めて、他愛もないことをしゃべって遊んでいることが、老醜を近寄れない妙法である。祇園のK女、森みやけのHちゃんが見舞ってくれた。すべてが感謝である。

11月25日（術後31日目）、私のノドの穴を見たいと云う人がかなりいる。みな妙な顔をする。私もグロテスクだと思う。玄人の女がやはり妙な顔をしたので、あんたは下の方に穴を二つもって、えらそうな顔をして歩いている。ましてその一つは、私のノドの穴によく似ている。私が一寸無性して周囲の毛をそらなかつたら、白髪ながらソックリである。嘘、立地のために、一方は憧憬的となり、一方はグロテスクの存在となるかと。玄人の女はナルホドと云うような顔つきをしていた。

カレーライスには福音漬け、夕焼けには赤トンボ、青空には白鳥、ライオンには縞馬、富士山には月見草、ほほえみにはほほえみ。

11月29日、人間は生まれ落ちるなり死刑囚である。こんなことは今迄少しも考えなかつたが、この頃は刑の執行を予感する死刑囚のような気がする。しかし、そう思つても一向頗めせず、平氣でいられるところが不思議である。死の世界はおおかた想像がつく。全く孤独だ。死人

同士会うことはない。肉親に会うこともない。緑もなし花もなし。すべてこれ空である。火葬場でお骨上げのときノド佛を大切にして小さい骨壺に入れるが、私にはもう、ノド佛はない。

12月4日（術後40日）、旭硝子役員一同としてカトレイヤや胡蝶蘭や見事な赤色のバラなどが見舞として届いた。病室が急に明るくなった。11月4日、テレビのモーニングショーで、72才の飯田蝶子が「あたしはこの年になつてもまだ体が燃えて困ことがあるんですよ」と発言して参集100人の婦人達をドキッとさせたが、司会者がその婦人達からアンケートをとったところ、当然だとする解答が82%あった。これはまた驚きである。俳人小林一茶の文政13年（54才）の日記に

八月八日 夕方一雨、雲竜寺葬、菊女帰る、夜四交合

八月十五日 夫婦月見、三交

八月十六日 墓參、夜三交

とある。彼は52才で菊女と初婚、死別して62才で後妻、これに逃げられて、64才で三度目のヤオ女をめとり、中風になって11月19日、65才で亡くなつたが、翌年4月、ヤオ女は一茶の子を産んでいる。農民詩人一茶は精力絶倫であったが、それでこそ二万の句作を残し得たのだと思う。

心で見なければ物事はよく見えない。肝腎のことは目に見えない。

12月6日、ある婦人から堂々たる接吻讚美論を拝聴したので記しておく。私が癌患者とキッスをしたら伝染するか、と聞いたのがキッカケである。言下にうつるもんですか、と返事があった。即刻、私はなるほど癌もキッスで伝染するようなハマはやるまい、と氣付いた。女は話をつづけた。伝染するだろうかと気にしながらするようなキッスなら始めからせない方がよい。私は好きな人だったら、假令その人が癌であろうと肺病であろうと、そんなことは頗めせない。胸がつまるようになって、抱きついたとたんのキッスでしょ。まさに陶酔の刹那だというのに、そんなこと考えるひまがあるものですか。

ことばは勧めがひのもとだ、なるべく寡黙でありたい。

私が生れたのは1899年である。緒方洪庵はそれより61年前の1838年（天保9年）に北浜三丁目に通塾を開き、1862年（文久2年）まで25年間、蘭学を福沢諭吉、橋本左内、大島圭介、大村益次郎ら門人600人に教えた。これら天保の青年は、年齢30から40才位で明治維新前後に大いに活躍した。明治の青年はこの人達に、天保老人は去れと迫つた。今や明治の青年は昭和の青年から、明治のオイボレは去れと云われている。

12月20日、入院後60日目、術後56日目、退院することが決定した。退院後は週に2、3回外来診察を受けることになる。

根のある鉢物を見舞にもらうと、すぐそれを家にもつて帰えるか、詰所にあげると云う。その理由は病院に根をおろして根ついては（寝ついては）いけないと云うのである。どの病室でもそう云って鉢物の見舞はいやがるそうである。一つ賢くなつた。だから私の退院の日は大安にした。

われ唯ひとりこの地上に生まれ独り生きてわれ
唯ひとりこの地上を去りゆく独り来り独り去り
ひとりとして隨うものなし

独生独死 独去独來 独來独去
無一隨者 大無量寿經 下卷

あ い つ

酒井九州男（64期 住友金属鉱山鉱山長）

社会に出てから二十七年、この内数年の都会生活を除いて、山々を転々とし自然の中で暮らして来た。山暮らしの余得は數え切れない。

朝一番の堅坑（鉱山のエレベーター）で上り、最上段の坑道で降りる。地表に抜ける坑道を歩いて外に出る。標高は千米以上。周囲の木々は葉を落して冬の到来に備えている。すぐ前の山から峰々が遠く北へうねうねと連なる。北端の峰が、また一つ白くなつた。昨日見た時よりも尾根を一つ越えて、確かな足どりで雪が近づいている……。

尾根を冷たい風が吹き抜ける。腹這いになって鉄砲の筒先を獲物の来る方向にむける。犬の叫びも風声のため仲々聞きとれない。風が一段と冷えて来る。腹這いになった目の前の木の小枝に小さな氷がつく。と見る間にその氷が風上の方にみるみる膨らんでいく。霧氷でえ奴は、こうして出来る……。

朝早く女房や子供が寝ている中を、そっと起きて、釣道具一式を持ち小渓の入口に来る。急流の岩を手で拾い、岩についている瀬虫を一匹一匹口で吸う。手が痛い程つめたい。餌に使う瀬虫を取り終えた頃、やっと歩ける程の朝が来る。蜘蛛の巣が顔にかかる。シメシメ、この渓は一番乗りだ……。

転勤の申し送りは全て終った。あれを引き継ごうか？イヤ待てよ。あんなに見事に生えて来る舞茸の巣を、なめこの出る木を、奴らに引き継いだら……来年の秋はコリヤ寝られんワイ。ヤメトコ……。

そうして今、私は鹿児島県の北部、山麓と水田との境界近くにある鉱山の開発に従事している。南国薩摩の燐々たる太陽、夕暮れとびかう螢、うるさい程の蟬の声、虫の合唱、小川の魚、赤トンボの群泳、秋には猪までが事務所の前庭に出て来て、威風堂々トロットの足踏みをする。ここには九州らしい自然が数限りなくひしめいている。

日本の自然の中を転々とし、国外でも発展途上国の辺境の厳しい自然と直面した山また山の鉱山を、自分の職場として働く生活。こんなに倫しさと厳しさの混在した生活を、何時俺は選択したんだろうと日々考える事がある。そんな時、いつも「あいつ」の顔と、「あいつ」との北野時代を想い出す。

私が北野中学校に入学したのは、敗戦の翌年の昭和二十一年であった。入学願書を出す為に十三駅に降りた時

焼け跡の向うに校舎がボツンと焼け残っているのが見え、なんとなく安心したのを覚えている。

入学してから敗戦後の急激な教育改革の渦中に巻き込まれ、戦後教育の最初の実験材料として、多分、いろんな試薬で試されたのだろうが、当時の私（達）にはさほど苦痛はなかった。苦痛と感じる程、私（達）が成長していなかったのか、敗戦後の教育について真剣に構築しておられた若い先生方の情熱が私達を支えてくれたからだったのか。とにかく、昭和二十一年に入学し昭和二十七年に卒業するまでの六年間、北野中学から北野高校と名前が変り、淀川の南側に住んでいた級友が、男女共学という教育方針で大手前に行き、替わりに大手前の女生徒が北野に移って来た。その様な変化はあったものの、結構楽しい学生々活を送った。

ラグビーは北野に入学した時から私のあこがれのスポーツだった。高校の3年生になってスリーコーターの一員に選ばれ、天王寺戦に勝った時の感激を今でも思い出す。勉強の方はしなければならないとあせりながらも、ついつい色々な遊び事に熱中し、後まわしになった。その上、当時の風潮として「民主主義」「社会主義」の名を冠した研究会が誕生し、議論があると聞けば時代に遅れないとその方にも肩入れをしなければならない。忙し過ぎて一日二十四時間では到底全てを消化しきれない。何かをカットするとすれば、アトでも出来る勉強をカットすることとなり、となるとあせりが益々増長する。社会に出て仕事が忙し過ぎた事が度々あったが、北野時代ほど長期間に亘って忙しかった時期はなかった。

欲の深い奴等は結構いるもので、私の友人達は勉強以外に二つか三つの仕事をこなしていた。その中に、バスケットと演劇と左翼運動と、その合い間にショットだけ勉強していた、背の高い、眉目秀麗（これは自称）の、ショットにやけた、喧嘩の強い、将来船長になるのが夢だった、「あいつ」がいた。

彼とはいつも一緒に、何か事があると聞くと二人で駆けつけて、紛争を煽ったりシズメたり。ある時、その彼と大失敗をやらかして、「北野の不届者の二人をどの様に処罰するか」を決める職員会議が深夜近くまで開かれた。会議の結果を二人でショボンと校庭で待っていた時、「俺、やっぱり海へ行く」と、彼がボツンと言った。「そやたら、俺は山へ行く」とこっちも言った。二人が一緒にいれば、最後はお互いを駄目にしてしまうと考えたのかも

わからない。

その後が、北大の水産学科の入試に合格したのに、東京からの帰りの車中で神戸女学院に入った娘に一目惚れし、北大へ行くのは嫌だと云ふ。テニヤワンヤの騒ぎの末に、当時新設されたばかりの神戸商船大に入ったが、女の子にはすぐにラブされたらしい。私は鉱山学科のある京都に入った。

当時の北野は、アトで勉強すれば自分の目的の大学に入れる様な教育をしていたようだ。念願の船に乗った

「あいつは今でも外國航路の船長として世界の海を駆けめぐっている。小生は昭和二十三年、大手前から移ってきた女生徒の一人と結婚して、今も山の中をうろうろしている。」

すばらしい職業を私に決断させた「あいつ」との出会い、女房になった女生徒と同じ先生に教えてもらったすばらしさ、山を降りる度につきあってくれる多くの友人—— 全ては、北野の六年間があったからだ、と感謝している。

廣田種三郎先生を悼む

この4月10日、2年振りに開催された六稜四七会同窓会に出席した。席上幹事の田村博孝君から廣田種三郎先生の訃報を聞いた。寝耳に水である。早速先生ご遺宅のご令室トク子様にお電話したら、昨年8月7日入院、10月7日肺膜癌で他界されたとの事、享年82才、あまり苦しまれなかつたとのお話をあった。

思えば一昨年4月7日、同窓会に4人の恩師と一緒に出席された同先生から金冷法の講義を受け、当時より既にはじめていた私の業界紙への投稿「宗教と私」「芸能会の話」「毒舌」(其後、放談四方山話に改題)のコピーをお渡ししたら、何と翌々日赤字で添削した批評版を送っていた。それから新聞社に頼んで私の投稿掲載の都度新聞ごと先生宅迄郵送して貰い、其後は昨年中頃迄先生の添削文を続けて戴いた。

それが昨年7月以後届かなくなつた。催促するのもどうかと思って、そのままにしていたら今回の田村君の報告である。何故もっと早く気がついて、先生の消息を尋ねなかつたかと自分乍ら慚愧に耐えない次第である。私が北野中学校に入学した昭和4年、明治33年生まれの先生は35才であった。当時6学級の6組に編入された担任の先生が廣田先生であった。早稲田の国文科出身の先生は終戦後郷里の尼崎市議を歴任されたご経歴からもうかゞえるように、学生時代の弁論部の猛者と思わせる弁士であり(私も弁論部にはいらされた)、黒板にチョークを軽くはさんでさらさらと書かれる字は、今にして思えば書の大家の字だったのである。これは国漢の小松先生(書いた後、惚れぼれと自らの字を眺める癖のあった)の楷書と並んで、当時の北中の二大書家と云われた所以である。

なかなか好男子で確かチョビ髪を蓄え、ユーモアを交えてのロマンに富んだ講義は、多少エッチな話(ヒロシケという綽名のもの)も交えられると云え、物理数学でくたくたの私達の脳神経をほぐして貰つたと思っている。何かの拍子に「お前そんな事ではまるでマルキのようだ」と云われた事があり、其後5年間マルキの綽名は卒業迄消えなかつた。私が自分でも奇人だなと思う因を作ったのも先生である。先入観は恐ろしい。

1年入学早々の夏休み、学校から白浜湯崎へ泊りがけの鍛錬会があり(当時は湯崎迄田辺から巡航船でしか行け

なかった)折悪しく心臓弁膜症を患つた私が両親・弟と同伴でこの会に参加した。従つて附添の先生の一人であった廣田先生と行動を共にし、先生の明朗な人柄に接し得た事も懐しい思い出である。

幾つ何才になつても先生は先生である。先生の温顔に今後接し得ない事は残念だが、仕事の方も煩雜な社長職を息子に譲つて、会長となつた現在、唯一の趣味の拙文に、先生の遺志を少しでも生かす事が出来たら、(思い上りとも思うが)墓下の先生も恐らく喜んで頂けると思っている。 合掌

昭和58年4月15日 福井一夫(47回卒業生)

元校長

浦野博夫先生の叙勲祝

昭和39年から同47年まで北野高校校長として在職された浦野博夫先生の叙勲祝のパーティーが、昭和59年7月29日午後3時から、新阪急ホテルで開かれ、大阪府教育長、校長会、四條畷高校、三国ヶ丘高校、北野高校職員、同窓会関係者百数十名が参會、浦野先生夫妻を迎えて慶びの宴を開いて盛大であります。

東京六稜会事務局

〒154 東京都世田谷区若林3-1-18

大山利雄 気付

電話 03-421-0693

お知らせ

六稜文庫について

以前は、校長室にて保管いたしておりましたが、図書館に移管し、拡充することになりました。以後、図書館に寄贈という形になります。

六稜同窓会だより

六稜大五会近況

大正五年卒業の同期生木村治郎君の努力で会が組織。

大五会の隨筆集は北中卒五十年記念号、出会い五十年喜寿を迎えて七十七年懐古・卒業七十六年老の戯言、五十六年を最後として老いの日に。

会員数・大正五年三月・116人、昭和五十六年・21人、逝去76人、不明19人。

昭和五十八年五月例会、大阪大江橋畔料亭うおまん、「われら大五会のもの、集まれ」のスローガンで呼びかけましたが、芝・恩智・草間・アイバラの四名。

懇談の中で、大阪北野の済生会病院跡に北中跡の記念碑建設に協力する事。野見君から「私は百歳まで生きて皆さんあと仕合をしてあげます」と結構な申し出。

(大五・栗飯原健三)



老いてますます活発な

六稜三九会(大正15年卒)

われら大正最後の卒業生はほぼ75~76才に達し、現在87名(近畿62名、関東21名、その他4名)で、その内、約半数は各自自適の生活に入り、他はまだ現役で活躍中です。

同期会の結束は年を経るにつれ益々固く、今回の記念碑の募金にも率先52名の会員が参加、また過去一年の例会は次の通りでした。

(1) 58年11月22日(火)梅田新道 離亭、13名

離亭は当会々員故林芳郎君の没後も遺族の方々が經營を継ぎ、増築も完成して、普通に北野卒業の人々で立寄る人も多く、盛況を極めています。

(2) 59年5月9日(火)大阪郵政会館、9名

この日は「とり鍋」をついて旧交を温め、時のたつのを忘却しました。

(3) 東京三九会も活況を呈し、59年4月20日(土)飯田・白井両幹事上京の時、関君のお世話で正午より青山のダイヤンドホールで有志午餐会が催され、大いに感銘を受けました。

また坂井信夫、菅瀬正重、中谷孫一の三君は大阪の例会にも出席されました。(白井)



写真左より、香村菊雄、阪口貞一郎、沢田正夫、飯田精次郎、林夫人、白井次郎、藤井精一、西宗康夫、井上健一、古島要、菅瀬正重、中谷孫一の諸氏

(11/22 離亭にて)

六稜昭三会だより

昨昭和58年は北野の校門を去ってより丁度満50周年にあたり、記念事業として竹生島巡り(前回六稜同窓会報No.16号に掲載済)を始めとし、記念文集(約90頁)を発刊しましたが、殆んど全会員より玉稿を寄せられ、内容には在学中の思い出話、隨筆、人生観、詩、短歌、川柳等誠に充実したものでした。又11月5日には大阪市北区太融寺に於て物故会員100名の追悼大法要を営み(参列者会員35名、ご遺族14名)、終了後は引続き近隣の大坂郵政会館集会場で秋季総会(ご遺族招待)を催し盛会裡に閉会しました。参列のご遺族の中には熊本県八代市よりご来阪下さった方(故岡部善修君夫人)もあります。更に本年6月9日には同期生故松尾竹一君の遺児(長男)松尾正武氏の格別なるご配慮により、京都東映太秦撮影所内の屋内セットの撮影本番の見学を許され一行(25名)は感銘を受けた次第です。因に同氏はテレビ朝日放映(土曜日)『暴れん坊将軍』松平健主演の監督です。又同日夕刻よりダイヤモンドクラブ経営の京都ソサエティにて会食を催しました。その席上卒業後始めて参加してくれた小林赳夫君よりわれら同期生で南京渡洋爆撃隊長として、南京での空中戦闘に参加し壮烈な戦死を遂げた故川口茂彦君(海軍少佐)についての色々な思い出話に一同は今更乍ら當時(昭和12年9月19日午前10時頃戦死=海軍省人事局長公電)を偲んだことでした。

(末吉記)

六稜五一会入学五〇周年の集い



去る9月10日、例年通り私達51期生の同期会を開催致しました。今年は私達が入学して丁度50年に当るという事で、記念として、恒例の東洋ホテルでの懇親会に先立って、当日午後2時、懐しの旧北野中学に集り、何かタメになる？ 話でも聞こうという事になりました。

残暑酷しい中を、三々五々校庭に集った同期生達は、彼所此所で、一部変貌した校舎、校庭を眺めつゝ、あ、ここがテニスコートの跡、ここは校長官舎のあった処、あそこは園芸作業場で高田の馬さん（元先生の愛称）に鍵の使い方を習った所等々、50年の感慨を新たにしました。

午後2時半、元北野高校溝脇先生の御厚意で、使用させて頂いた視聴覚教室に於て、同期万井君（京大教授）の「幼老塾創設の夢」と題する講義を受講しました。オールドバーのラベルにその肖像を印されているトマス・バーが120才で結婚した話より進み、老化防止の一対策として、単なる養老院ではなく、幼老共に住んで、共に健康と発育を促進する塾の夢は、我々還暦を過ぎた者達には一服の活力剤と清涼剤でありました。又往年教壇に立たれた、土屋、小林両先生が生徒宜しく、神妙に聽講されている姿は誠に微笑ましい姿でした。教室での講義も終り会場を移しての恒例の懇親会では、遠く東京、富山、倉敷在住の友が近況又孫の話よりトマス・バーに比較しての各自の現状と談論風発、和気藹々、数時間を過ごしました。

昨年の例会より1年の間に、保田・庄田・村上三先生、竹田・白土の二旧友の逝去と毎年別れ去る人々の事を知る度に、その人達の冥福を祈ると共に、我ら互いの自愛を希う次第です。

終りに、当日北野高校で出会い質問した現役の在学生諸君が礼儀正しく、明るかった事を想い起こすと、矢張り北野の伝統は引継がれていると嬉しく思いました。

（五一会 代表幹事）

旧北野中学校跡・済生会中津病院前庭に

来春・六稜健児思い出の記念碑建立へ!!

■ 旧大阪府立北野中学校々舎は明治35年から昭和6年まで約30年、現在の北区芝田町、済生会中津病院の地に在りました。その間の卒業生は五千有余、伝統と歴史を誇る六稜健児が世に送り出されました。

■ この由緒ある芝田町の旧北野中学校跡には現在殆ど何も遺っておらず、母校創立80周年記念当時すでに他界された先輩方から記念碑の建立が提唱されて来ました。

■ 昨年母校創立110周年を迎えるに当たり、有志相寄り、待望の記念碑建立が再燃し、こゝに鴻池謙一氏（昭5卒、六稜同窓会副会長）を会長に、上野淳一氏（昭3卒、同窓会長）村田義人氏（現北野高校長）豊島正忠氏（済生会中津病院院長）土屋、水島両先生（旧師）の方々を顧問に、関係各卒業年度から推進委員、世話を依頼し「旧北野中学校跡に記念碑建立の会」が設立組織されました。

■ 昨年11月から旧北野中学卒業関係の先輩同窓諸兄に呼びかけましたところ、募集ノ切の本年6月末までに、予算を遥かに凌ぐ寄付金が集り、いよいよ来春には建立の運びとなりました。芝田町現済生会病院の前庭に、六稜健児思い出の母校記念碑として永く讃えられることであります。

■ 記念碑建立に賛助ご寄付を賜わりました先輩ご有志諸兄に厚くお礼申上げますと共に、竣工式は病院の新增築のため来春になりますが改めてご案内させて頂きます。

昭和59年9月

旧北野中学校跡に記念碑建立の会 実行委員会

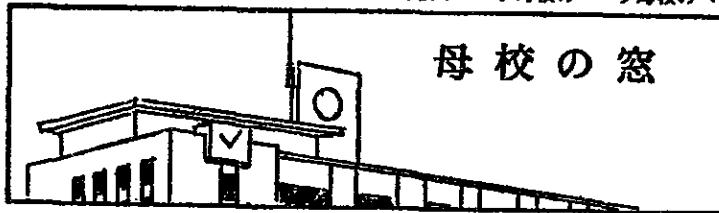
初代「ワインの女王」に

勝部香里さん（94期）



週刊アサヒ芸能9月6日号から転載

今年の8月17日、東京の帝国ホテルで開かれた「サントリー・ワインクイーンコンテスト'84」で、本校出身の奈良女子大三年生、勝部香里さんが全国2400人の応募者の中から初代「ワインの女王」に選ばれました。北野の女子バスケで鍛えた彼女の健脚は若手審査員を悩殺、賞金50万円を獲得したほか、9月中旬から美の使節としてヨーロッパ・ワインツアーオンに参加、ボルドーやラインのワインの本場を親善訪問します。



職員異動

人位 昇 (S 57~58)	教頭
福田 博造 (S 25~59)	物理
溝脇 正巳 (S 37~59)	国語
緒方 淳子 (S 50~59)	化学
口村 浩史 (S 44~59)	数学
寺地 礼子 (S 49~59)	国語
中村 弘 講師	美術
田原 伍美 (S 55~59)	事務長
小池善三郎 (S 53~59)	主査
合田美代子 (S 39~59)	実習助手

人位教頭先生は昭和59年1月1日付をもって勝山高校校長に、他の先生方は3月31日付をもって本校を去られました。

福田先生、小池主査は御退職、緒方先生は藤井寺高校教頭に、溝脇、口村、寺地(中野、永田)、中村、田原合田先生はそれぞれ、今宮高校、東淀川高校、高槻北高校(泉大津高校、茨木東高校)向陽台高校、府立工専、茨木高校に転勤になりました。今後の活躍をお祈り申しあげます。

又、人位教頭先生の後任として1月1日付で府教委指導一課から原田高好教頭先生をお迎えし、4月1日付をもって次の新しい先生方をお迎えしております。

原田 高好 (府教委)	教頭
野邑公美子 (東豊中高校)	国語
野尻 和正 (池田高校)	国語
辻 雅子 (守口北高校)	国語
池田 雅文 (豊島高校)	物理
宮本 意武 (新 任)	化学
竹田 伸二 (新 任)	数学
長谷川正夫 (野崎高校)	事務長
大橋 正美 (交野高校)	主査
平田 友亮 (講 師)	社会
赤染 恒子 (講 師)	化学
半井 康子 (講 師)	化学
柳田 博明 (講 師)	英語

母校の窓

【剣道】

公式戦 大阪高校総体団体(男子)不戦勝、2-3対貿易学院負。(女子)0-1対豊島負。

定期戦 対天王寺戦勝、北野、豊中、池田三校戦男子団体戦優勝、男子個人戦西村優勝、松林隼優勝、女子個人戦中谷準優勝。

【サッカー】

公式戦 全国大会府予選2回戦4-2対大阪学院勝、4-1対西浦勝、0-5対狹山負。大阪冬季大会2回戦3-0対関西大倉勝、2-0対吹田勝、1-1(PK 4-3)対春日丘勝Aゾーンブロック優勝、中央大会1回戦0-6対初芝負。全国高校総体府予選2回戦1-6対茨木西負。定期戦 1-3対膳所負、4-2対天王寺勝。

【ソフトボール】

公式戦 10月部別大会、7-3対南寝屋川勝、0-10対住吉商業負。全日本選手権府予選、4-3対聖母女学院勝、12-5対具塚南勝、1-10対大谷負。

【女子バレー】

公式戦 大阪総体予選、2-0対追手門勝、0-2対箕面東負、2-0対島銅勝。府高地区大会、0-2対茨木負、2-0対刀根山勝、2-0対箕面東勝。秋部別大会、0-2対淀之水負、0-2対和泉負、0-2対四天王寺(二部降格)負、春第2次予選、0-2対松原負。春部別大会、0-2対美原負、2-0対伯太勝、0-2対相愛負3位。インターハイ予選、1-2対箕面負。定期戦2-0対天王寺勝。

【囲碁・将棋】

公式戦 高校囲碁府大会に東敬一は三段で出場、3勝1敗の好成績で日本棋院より三段の免状を授与された。府高校将棋大会、4-0(1分)対住吉勝、3-2対附属天王寺勝、3-2対高津勝、準決勝2-3対布施工業B負。3位入賞。

【クラブだより】

59. 8. 1 現在

【女子バスケットボール】

公式戦 公立高校大会対西淀勝、対渋谷勝、対千里勝、対島銅負。団体予選対箕面東勝、対淀商負。新人選対茨木負。インターハイ予選対相愛勝、対精華勝、対泉尾勝、対大和川勝、対富田林負ベスト16。定期戦対成徳負、対鈴蘭台負、対長田負、対須磨東負。

【野球】

公式戦 秋季大会不戦勝、1-9対藤井寺敗。春季大会不戦勝、5-6対三国丘敗。府大会3-5対成城工敗。
定期戦 6-8対浪商敗、6-13対浪商敗、3-12対市岡敗。

【水泳】

公式戦 大阪高校対抗女子100m自由形7位篠本明子、女400m競泳9位柴岡・林・篠本・加藤。府大招待男400自5位教賀寛之、女100自1位篠本、女200自1位(大会新2'29"0)篠本、女400m競3位柴岡・加藤・篠本・林、女子総合3位。大阪新人戦女100自7位篠本。

大阪高校総体 男400自15位教賀、男1500自13位教賀、男400m競10位、800m競11位教賀・荒巻・吉住・内田、女100自11位篠本。

【卓球】

公式戦 大阪高校選手権大会地区予選(男子)3-1対大商勝、3-2対東豊中勝、3-1対箕面勝、女子不戦勝、3-2対刀根山勝、3-2対豊中勝。中央大会(男子)2-3対美原負、(女子)0-3対泉南負。

定期戦 市岡(秋季)8-7勝、(春季)10-5勝。天王寺2-13対負。

連絡

第13回六稜杯(S.58/11)優勝(男) 本田啓司(55卒)、(女)小原理恵(56卒)。第14回六稜杯(S.59/4)優勝(男)重内利明(41卒)。(女)口村典子(59卒)。

年2回春、秋O.B.現役合同の大会です。夜はO.B.の懇親会です。是非ご参加下さい。

【男子バスケットボール】

公式戦 大阪高校新人大会79-44対吹田勝、49-59対高槻南負。全国大会府予選不戦勝、53-47大東勝、50-48対八尾勝、51-52対関西大倉負。定期戦 兵庫県遠征試合43-74対鈴蘭台負、48-89対兵庫負、61-65対須磨東負、46-91対長田負。四校定期戦71-51対神戸勝、54-58対灘負。

【コーラス】

出演した演奏会:六校交歎音楽祭、新入生歓迎演奏会、本校59年度文化祭。

連絡

今年は、16人という多数の新入生を加えより充実した練習ができるようになり、11月に行われる六校交歎音楽祭に向けて、練習に励んでいます。

【男子バレーボール】

公式戦 大阪総体予選第一次予選1-2対浪商負、2-0対関西大倉勝、2-0対箕面自由勝。府立高校大会地区大会2-1渋谷勝、2-0東豊中勝、対阿武野不戦勝。中央大会2-0対長野勝、2-0対泉陽勝、0-2対桜塚負(ベスト8)。秋季部別大会0-2対南寝屋川負、1-2対豊中負、2-0対夕陽丘勝(結果3位)。春の高校バレー第2次予選2-0対東豊中勝、2-0対茨木西勝、2-0対長野勝、0-2対藤井寺負(ベスト16)。春季部別大会2-0対豊中勝、0-2対寝屋川負、2-0対市立勝(結果2位)。インターハイ予選2-0対花園勝、2-0対清教勝、2-0対狹山勝、0-2対此花学院負。

【硬式庭球】

公式戦 府大会今西順司本選進出。今西、梅沢靖匡ペア本選2回戦進出。講崎英一、向賀一郎ペア本選進出。一色義明、紀太保俊ペア予選決勝進出。講崎、一色予選準決勝進出。新人学校対抗戦Bチーム(一色、大鐘卓也、竹村和久)予選決勝進出。Aチーム(今西、講崎、梅沢、向)予選準決勝進出。田村カップ大鐘予選準々決勝進出。春季大会講崎、渡部洋子予選決勝進出。中川伸一、寺北晃予選準決勝進出。

定期戦 対市岡1勝14敗負。

【書道】

全国学生書道展覧会に出品。読売新聞社賞、理事長賞等、少数にも拘らず多くの賞を得ました。文化祭は阿部先生御所蔵の中国の拓本、古印材と硯の銘品の数々と部員の篆・隸・楷・行・草の作品を展示、多くの見学者を得ました。

講堂での席書きは特に村田校長先生の御参加を頂き、部員も張り切って揮毫しました。68期高嶋正直氏来校、展示、席書きも見て頂き、懸案の阿部先生を囲む会、夏休み後にも具体的にと御協力を約束して頂きました。その他の先輩諸氏にも御連絡、お願ひ申し上げると思いますので、何卒よろしくお願い致します。

【バドミントン】

公式戦 大阪総体(個人)女子シングルス4回戦進出。大阪高校選手権(個人)女子シングルス5回戦進出。大阪高校春季競技大会(団体)対少路2-1勝。対渋谷2-0負。

【美術】

連絡

永年、お世話をなった中村弘先生に代って内藤裕子先生にご指導いただいている。

【女子テニス】

公式戦 大阪高校春季大会木村倫子本選進出。竹葉なおみ、森井桂子ペア予選決勝進出。上本未夏本選進出。星教洋見予選決勝進出。浅野美子予選準決勝進出。上本未夏、浅野美子ペア予選準決勝進出。

【演劇】

大阪府高校演劇研究大会、文化祭。連絡

7月にまた4人新入部員を加え、人数はふえたものの、クラブ活動内容の充実性、チームワークに欠けるくらいがあるので、それが今後の課題となっています。

【柔道】

公式戦 北地区大会(個人)田中準優勝。(団体)(5人戦)Aチーム対西野田負。B対大手前勝、対東淀川勝、対西野田工勝、対東淀工負、準優勝。全国選手権府予選兼新人北地区大会対関大勝、対渋谷勝、対豊中勝、対高槻南勝、対大商負準優勝。北地区学年別大会(3人)2年B対摂津負。A対池田勝、対北千里勝、対北陽負。1年A対摂津負。B対北陽勝、対島本勝、対浪商勝、対東淀工勝、対大阪負、第3位。大阪北地区大会(5人)対金光第一勝、対浪商負。定期戦 大村杯大会(7人)予選リーグ対長田勝、対伊丹西勝、対姫路東勝、対茨木工勝。準決勝対守口北負。3位決定戦対甲陽勝。第1回四校対抗試合対高津勝、対大手前勝、対豊中勝、優勝。京大柔道部主催招待式合準優勝。春天商戦点取り10-0勝、勝ちぬき9人残して勝。

【合氣道】

58年度合宿は阿部先生、木下氏の御指導のもとOB諸氏の御協力にて成果大で無事終了。越年稽古は羽曳野道場にて。70登の道場が満員の盛況で熱気むんむん。

文化祭は力いっぱいの演武に満員の観客より割れんばかりの拍手を受けました。

恒例の新宮高校との合同演武大会は本年は日程の都合で不参加。来年を期す。

【オーケストラ】

六校音楽祭。新入生歓迎演奏会。文化祭：「パートーヴェン第1番」。

三

六校祭へ向けて練習にはげんでおります。しかし、男子部員の減少や、楽器の不足などに頭を痛めている次第です。

【器械体操】

公式戦 1、2年生大会 2部女子種目別段違い平行棒優勝。大阪高校春大会 2部男子団体総合 4位、女子団体総合優勝。個人総合 3、4、6位。

【コンピューター】

旺文社よりモニターとして借り受けたFM7(本体のみ)を用いて活動を行なっていますが、活動場所・周辺機器等困難な状態にあります。

昨年10月より、コンテスト用のプログラムの作成が毎年義務づけられています。今年から本格的に参加したい。

[文 艺]

年3回部誌「幻」を発行。

文化祭では、司馬遷「史記」の研究を展示。「北野文学」(44号)では創作に加えて文芸部私撰百人一首とその鑑賞も行っています。

[ラグビー]

公式戦 全国大会府予選12-6対布施勝、51-0対登美丘勝、30-4対高槻北勝、準々決勝0-18対淀川工負。近畿大会府予選2回戦4-0対堺東勝、39-0対池田勝、準々決勝4-9対布施工負。府春季大会26-4対香里丘勝、39-4対金岡勝、37-10対都島工勝、27-12対花園勝、13-9対大東勝、31-6対浪速工勝、優勝。

定期戦 13-4 対洛北負、6-6 対天王寺引分け。

山 岳

府予選男子11位。女子1位で全国高校総体出場(8/1~5)秋田県。
今年予定、夏山合宿(8/8~12)、猿倉→白馬→白馬乗鞍→朝日一小川温泉。弥山(9/22~24)。京都北山(10/27~28)。俱留尊山(11/17~18)。

大学合格者一覽表

(59. 5. 2 現在)

國	立	男	女	計	神戸	2部	1	1	香川	山学院大	1	1	第1	薬科	大	1	1	ゴンビエー	生	1	1					
北	海	道	大	2	2	公	立	男	女	計	西	学院大	16	41	57	合	計	26	55	フロニエ化粧品	1	1				
東	北	大	1	1	群	馬縣立	女	大	1	1	甲	南	大	3	9	12	調	西大	2部	1	1	合	計	1	6	7
武	浦	大	1	1	横	浜市立	大	1	1	神	南女子	大	3	3	3	早	稟田大	2部	1	1	統	總	男女	計		
東	京	大	10	10	京	都府立	大	1	2	3	神	戸女子	学院大	17	17	17	薬	大	男	女	計	國家	公	員	1	
東京医歯科大	1	1	京都府立医科大	4	1	5	神	戸	女子	学院大	9	9	京	大阪医療技術短	1	1	住	友	友	行	1	1				
東京学芸大	1	1	京都府立立教大	1	1	1	神	戸	女子	大	1	1	大阪	医療技術短	2	2	大	阪	ガス	1	1					
お茶の水大	2	2	大阪女子大	1	1	1	神	戸	女子	大	28	28	東	京都府女子短大	4	4	富士	化	紙工	1	1					
一	橋	大	3	3	大阪市立大	11	4	15	松	南女子	学院大	4	4	大阪府看護短大	3	3	合	計	1	3	4					
明	沢	大	2	2	大阪府立大	16	17	17	船	和女子	大	1	1	京都府女子短大	16	16	57年(昨年)	阪大	車	1	1					
福	井	大	1	1	神戸市外大	1	1	1	園	田中	女子	大	1	1	光	光学女子短大	2	2	国	立	10	11	28			
信	州	大	2	2	神戸市商科大	4	4	4	兵	庫	医科大	1	1	岐	安女子短大	1	1	公	立	15	24	39				
浜	松	医	大	1	1	和歌山県立医大	1	1	1	武	庫川	女子	大	7	7	大阪	女子	医	1	1	私	立	18	20	42	
名	古	里	大	1	1	高知女子大	1	1	1	青	山	学院大	2	2	4	大	谷女子短大	1	1	短	大	33	10	43		
古	屋	工	大	1	1	京都医工科大	1	1	1	学	院	大	1	1	關	西	附属短大	7	7	準	大	3	3	3		
滋	賀	大	2	2	合	計	37	15	52	産	応	農業大	28	6	34	金	蘭	短大	7	7	專	修	3	1	4	
滋	賀	医	科	大	2	2	神戸市外大2部	1	1	芝	浦	工業大	1	1	堺	女子	短大	1	1	就	職	4	4	4		
京	都	大	70	13	83	私	立	男	女	計	上	智	大	5	3	8	柏	成女子短大	1	1	合	計	31	31	70	
京都	教	育	大	3	3	京都外大	7	7	中	央	大	1	3	4	春	山学院短大	1	1	58年(昨年)	阪大	車	1	1			
京都	工	大	3	3	京都産業大	2	2	東	義	大	1	1	甲	子	研	短大	1	1	國	立	95	15	26			
大	阪	大	45	20	65	京都女子大	19	19	東	京	女子	大	1	1	甲	南	女子短大	2	2	公	立	22	34	56		
大	阪	教育	大	1	22	23	京都薬科大	15	15	東	京	電機大	1	1	神	戸星雲女子短大	1	1	私	立	20	31	51			
大	阪	外	大	3	6	9	同志社大	22	21	東	京	理科大	4	2	6	神	戸学園女子短大	1	1	短	大	39	10	49		
神	戸	大	30	19	49	同志社女子大	16	16	東	邦	大	1	1	神	戸	女子短大	1	1	傳	大	1	3	4			
奈	良	女子	大	8	8	仏	教	大	1	1	東	洋	大	1	1	敬	女子	学院短大	3	3	專	修	1	1	2	
奈	良	教育	大	1	1	2	立	命	館	大	22	12	日	本	大	1	2	龍	翔	女子短大	1	1	就	職	2	2
和	歌	山	大	1	1	鰐	谷	大	1	1	2	日本	医科大	1	1	武	庫川	女子短大	6	6	合	計	30	30	56	
鳥	取	大	1	1	大阪	医科大	6	5	11	日	本女子	大	1	1	合	計	64	64	59年(昨年)	阪大	車	1	1			
鳥	取	医	科	大	1	1	大阪工	重	大	3	1	4	2	リ	ス	女子	大	1	1	華	大	立	20	20		
岡	山	大	1	1	大阪薬科大	2	2	星	藻	大	1	1	防	衛	医	大	2	2	公	立	15	38	53			
広	島	大	1	1	大阪博	産	大	4	4	武	藏	工業大	1	1	防	衛	大	1	1	私	立	30	30	57		
徳	島	大	3	3	大阪	薬科大	1	8	9	明	治	大	1	1	合	計	3	3	短	大	54	10	64			
香	川	大	3	3	通	手	院大	1	2	3	明	治	大	2	2	專	修	男女	大	1	2	3				
香	川	医	科	大	1	1	國	西	大	24	27	51	立	正	大	1	1	職	業	訓練	1	1	傳	7		
愛	媛	大	1	1	國	西	医	科	大	1	1	立	正	大	1	1	大阪	府貿易專	1	1	統	職	4			
九州	大	4	4	國	西	外	藝	大	3	3	早	稟	田	大	30	4	34	大阪	工業技術短	1	1	合	計	35	50	95
宮崎	医	科	大	1	1	近	畿	大	4	4	8	四	山理	科	2	2	大阪	デザイン	1	1						
合	計			255	255	國	南	大			2	2	能	文	理	大	1	1								

校のページ母校のページ母校のページ母校のページ母校のページ母校のページ母校のページ母校のページ母校のページ

【フォーク音楽】

連絡

名簿を作りますので、先輩方、下記の所まで住所、卒業年度等を御連絡下さい。

〒561 豊中市庄本町1-11-25

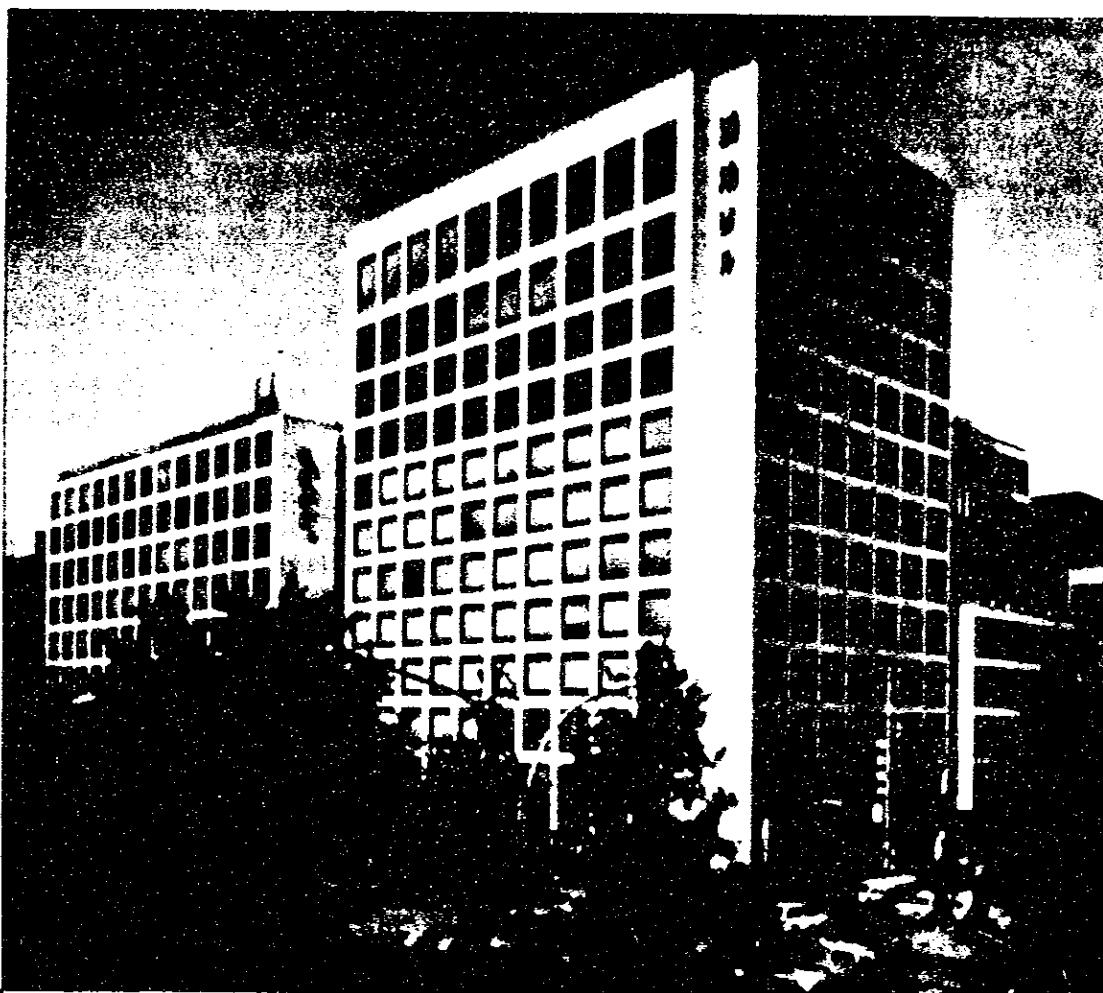
森 明 美

【陸 上】

公式戦 大阪高校駅伝兼全国予選12位 2'25"37"7、大阪インターハイ800m5位 2'01"0 上田剛弘、高跳び6位 1m61森田由理子。近畿大会800m予選1位 1'56"9 上田剛弘。

【ハンドボール】

公式戦 新人大会18-14対東淀川負。春季総体46-3対箕面学園勝。26-10対北陽負。敗者復活戦20-14対千里勝、23-9対豊中負。



鴻池本社ビル 左—本館/右—新館(大阪・御堂筋)

輝かしき伝統 磨かれた技術



株式会社

鴻 池 組

取締役社長 鴻 池 藤 一

本社・大阪本店 大阪市東区北久宝寺町4丁目27番地

電話 06(244)3500

東京本店 東京都千代田区神田駿河台2丁目3番地11

電話 03(296)7700

名古屋・広島・山陰・四国・福岡・南九州

神戸・京都・北陸・仙台・北関東・横浜・沖縄

プロフィール
MBS プラ
アシスタントとして活躍する
佐々木 映子さん (94期)



白馬岳のよりもつ縁で局の先輩から「テレビに出ない?」と誘われ、「え、やります」と二つ返事で出かけて行って驚いた。ミス大阪はじめ50人のプロがひしめいている。カメラテストから口頭試問まで人並にオーディションを受け、女子大生4人組の1人にえらばれた。当面は週1、2度お目見えのお天気ギャルだが、ファッションショーやカーレース、展覧会から甲子園の取材まで、なんでもやる。半年毎に契約を更新する日当パート。

4人組の中では応募の動機が一番わからぬと編集スタッフから云われる。が、本人としては、学校と家との

往復を繰り返していた過去の生活からの脱皮のつもり。阪大の人間科学部に入った後も、学校へは歩いていける距離だったので、ちょっと冒険をしてみたい気があった。だから将来もマスコミに進むかどうかは未定。脳生理の研究所に入る気持の方が現在では強く、大学の教室めぐりを続けている。

男女雇用平等法をどう思うかと聞くと、がんばる男女には差がないんじゃないんですか、画一的なのはイヤだけど、と前置きして、ただ、がんばらない男でも社会はうまく組み込んで生きているのに、女子は入口で拒まれたり入ってからでも容易にドロップアウトしたりするので、そこの保障を、との答。

北野では地学部に所属。今でも星見の会を能勢などでやる。北野の印象は、すごく過ごし易い場所。無理しないでつき合える友達ができた。型にはめこもうとするところのない、伝染病のはやらない学校。ただ、教師も生徒も伝統を大事にしきっていて、もうちょっと斬新なことにに対する許容があつてもよかった。ベテラン先生の匂いが懐しい反面、若い先生方は小さくなつて個性がなかった——。外航船の船長をしている父が帰国すると、港へお土産を奪りに行く20才。

(J)

編 集 後 記

- 本誌の特徴としては、若い女性の写真が散見することである。北野といえば、まず思い浮かぶのは男だが、女だって負けてはおれません。今後どんどん活躍の場を広げ、どしどし本誌にご登場を願いたい。また、86才の老六稜健児に感動した。その意氣、その境地、凡俗の到底及ぶところではない。「坂本さん、元気でもっともっと長生きして下さいや。」惜しみない声援を送りたい。
- 編集者は母校の現職として、創立80周年・100周年・110周年の学校と同窓会両方の盛事に立会う幸運に巡り合うことができた。いずれも、それぞれに意義深いものであった。ところで、110周年は、同窓会員にとっては120周年・125周年とつづく一つの節にすぎず、学校とは又違った観点より、お祝いもごく内輪で、という方針で、母校発祥の地難波御堂に近い「ホリディイン南海」の立派な会場で、多數相集い、厳肅なうちにぎやかに総会を兼ねて祝った。110周年記念名簿残部あり。希望者は、振替 大阪1-309004 六稜同窓会名簿刊行会へ。郵便局にて。(満島)

まき・ごろう の新刊と

(六稜57回生)

「女は二軍じゃない」
 女らしさの中に情熱を
 秘めて、前向きの
 人生を続けた
 日本初の女子
 校長の物語

話題作

おれたちやさん

発売

11月中旬

予価1200円



イラスト
手塚治虫

おれたちやさん

小説

定価980円
 *好評発売中

黎明書房

名古屋市中区丸の内3-4-10
 大津橋ビル 052-962-3045

かつてセンバツ全国優勝をはたし、高校野球に
 热血をそいでいた著者が、その半生を語る、
 六稜 同窓会員 必読の人生ドラマ。